



第12回

市民シンポジウム

参加費 無料

「つくば」と「筑波」、「形(かたち)」と「像・象(かたち)」

ReDiscover つくば

住まいや建築には、形・しくみとして現れる様式があり、暮らしの中にはしきたりや習わしのような様式がある。前者を「形」、後者を「像・象」と表現してみた。筑波には筑波の伝統の様式があり、つくばにもつくばの新しい様式があるのではないかと。埋もれてしまった、あるいは埋もれかかった様式もあるかもしれない。一方で、新しく生まれようとする様式もありそうだ。それを、つくばと筑波の形と像・象の中から見つめてみたい。意外と面白い新しい「かたち」が見えてくるかもしれないし、伝統の「かたち」を見直す機会になるかもしれない。

それらを、筑波からつくばへ、つくばから筑波へ橋渡し(ブリッジング)する機会にしたい。さらには「筑波・つくば」を超えて全国に発信(ブリッジング)できれば望外の喜びである。これらがうまく動くためには、様々な形を発見しそれを橋渡しする人材が不可欠である。

広瀬さんには、クリエイターとして当地の特徴あるかたちを見出し、それらをブリッジングして活用に至る提案を期待したい。

「ブリッジング」一創造的チームの仕事術―の著者である広瀬さんが手がけるプロジェクトは、大規模開発から小さい施設のリノベーション、IT企業のユニークなワークプレイスから、公民連携のスキームの立案、エリアマネジメントの事業企画、果ては最高級豚肉の売り方まで、多岐にわたっています。著書の中で広瀬さんは、プロジェクトやそのチームに創造性をもたらす才能ある個人のことを「クリエイター」と呼んでいます。そしてクリエイターと組織が本質的に組み合う場を作ること、「ブリッジング」と呼んでいます。言い換えれば、土地や物、お金を持っていて何かをしたいと考えている人と、何をすればよいか考え提案する人を繋げる場づくりを「ブリッジング」と呼び、広瀬さんはこれまでたくさんこの場づくりをこなしてきたといっています。

今回われわれつくば建築研究会は、広瀬さんをお願いして、つくばの歴史、風土、特徴などを学んでいただき、第3者の目で行く固有の魅力とその活用方法をいくつか提案いただきます。

さてどんな面白い提案が飛び出するか。広瀬さんと一緒につくばの新しい魅力、可能性を再発見(ReDiscover)してみませんか。



広瀬 郁 Iku Hirose

株式会社トーン&マター代表
プロジェクトデザイナー

日時: 2月17日(土) 13:00~17:00

会場: 塚本邸 茨城県つくば市大576-1

主催: NPO法人つくば建築研究会 茨城県つくば市台町1丁目8番地1

Tel.029-886-8039 Fax.029-886-8035 <http://tsukuba-arch.org>

